

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	⑤ 地下水流入抑制の敷地管理
提案件名	撤去が容易な遮水壁による時間差多重防御の提案
提案者	公益社団法人 土木学会
<p>1. 技術等の概要</p> <p>基本的な考え方は「時間差多重防御」である。今回の地盤を対象とするリスク管理では、完全に地下水の流入を防止することは難しい。また、抜本的な対策方法が設計時に取れない状況では、時間要素を加えて管理することが望ましい。</p> <p>時間要素とは、万が一、遮水壁などに漏れが生じた場合に、それが限定拡散であるように制御し、第二の遮水壁が耐えている間に時間を作り、その時間差を利用して適切な処置を限定的に行える仕組みである。そのためには多重での遮水壁が必要となる。</p> <p>多重遮水壁の方法として、凍土方式と併用または変わる方法として、固化処理型壁状遮水壁を提案する。</p> <p>遮水壁はセメント系で固化したものや、地中連続壁を利用すると、永久的に地下水環境を変えるので、注意を要するが、今回のようにそれ以上のリスクが存在する場合は、積極的に使用しなくてはならない。</p> <p>工法としては、地盤の硬軟にあまり左右されず、工期も短くて済み、改良体の深度方向の品質にばらつきが少ない。</p> <p>ただし、これらは一列よりも2列にする。現在示されている地盤図を前提にすると、建屋に近い部分から、第3層の泥質部に根入れする形が第1列。第5層（第4層を遮断する形）まで根入れする形が第2列とする。</p> <p>また、第1列と第2列には10m 間隔で二つの壁をつなぐ壁に垂直なバルクヘッドを設置しておく。この区画ごとに流出物を観測する体制をとる。</p> <p>2. 備考</p> <p>・ 開発・実用化の状況</p> <p>たとえば固化処理型壁状遮水壁の一つである CCC 工法の実績等は下記のサイトにて公表されている。現在まで11件。</p> <p>http://www.landcreative.co.jp/construction.html</p> <p>・ 開発・実用化に向けた課題・留意点</p> <p>実用化研究はすんでおり、大きな課題はない。特に優れている点は、施工速度とほとんどすべての地盤に対応している点である。</p> <p>・ その他</p> <p>国土交通省 NETIS 登録 (QSK-120005-A) 高品質変位低減型中層混合処理工法</p>	